

2018年(平成30年)

第127号

(7月1日)



発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

諸行事を陰で支える 青年部が活躍 ～祇園祭、ユース21 京都～

◆祇園祭巡行曳き手ボランティアオリエンテーション



6月24日、祇園祭山鉾巡行曳き手ボランティアのオリエンテーションが東山開晴館六原学舎にて行われ、巡行当日に曳き手や沿道整備などのボランティアに参加する約600名が集まりました。京都教会青年部と新宗連京都府協議会青年部からも19名が参加しました。

公益財団法人祇園祭山鉾連合会の岸本理事長及び八坂神社の森宮司の挨拶に始まり、山鉾町担当者及び曳き手曳き手ボランティアリーダーの紹介のあと、全体説明、山鉾町別説明会と続きました。

岸本理事長は当会ボランティアが始まって今年で35年になることにふれ、今や祇園祭はボランティアなくして成し得ないと述べ、ボランティアと永年このような関係にあるのは全国的にも珍しいと紹介。今年も山鉾町と一体となって取り組んで頂きたいと期待を寄せられました。

森宮司は当日の天候がどうなるかは分からないが、天変地異を鎮めるために始まったこの祭りは、何があっても巡行はあると心構えを述べられました。また今年はこの祭りが始まって1149年目の奉仕であり、平

成最後になると披露。来年は新しい年号で1150年目の区切りある奉仕になると述べ、一層の活躍を期待されました。

山鉾町別説明会では京都教会青年部及び新宗連青年部は今年担当する八幡山と黒主山に分かれて参加。当日の集合時間や衣装の確認など、リーダーを中心に和やかな雰囲気のもと進められました。

その後、ボランティアメンバー全員は八坂神社へ移動。本殿を昇殿しお祓いを受けました。なお八幡山、黒主山は7月24日の後祭に巡行します。

◆ユース21 京都の平成30年度理事総会

ユース21 京都の平成30年度理事総会が6月22日、三条柳馬場にある京都 YMCA で開かれ、加盟団体代表者約25名が集まりました。京都教会青年部からも2名が参加しました。

現在、ユース21 京都はハブセンターをはじめ、京都市成人の日記念式典ボランティアネットワーク、車いすスポーツボランティアネットワーク、コミュニティーネットワークの活動を展開中。

ハブネットワークからはフェイスブックを活用した活動の情報発信について報告。成人の日記念式典のネットワークからは今年度より、所管が京都市教育委員会から新たに創設された若者はぐくみ局に移管されたことの報告。またユース21 京都のブースで行われている姓名鑑定と呈茶席でのお茶たて体験コーナーが新成人に大変好評だったと報告がありました。

平成30年度の事業計画では成人の日記念式典のネットワークからブースの充実を図ること。車いすのネットワークからは天皇杯が授与されることや第30回記念大会になることの発表。コミュニティーネットワークから加盟団体交流の計画が示されました。予算案も含めて全会一致で可決、承認されました。

時事刻々
 6月18日朝、大阪北部を震源とするマグニチュード6.1の地震が発生しました。京都府も震度5程度と、阪神淡路大震災以来の大きな揺れに、見舞われました▼4人の死者、4百人近い負傷者を出すなど、大きな被害になっていきます。中でも、倒れてきたブロック塀の下敷きになり、小学4年生の女の子や子供の見守り活動に向かっていた男性の命が奪われたことは、本当に痛ましいことですよ▼京都人は災害に疎いようですよ。しかし、歴史を振り返ると、地震や水害、火災、戦火と京でも多くの災害が起こりました。たまたまこの百年ほど、大災害を受けなかっただけですよ▼大阪の高槻市を包括地区としてもつ乙訓支部では、幹部さんが飲料水や食料を、被災地の会員さんに届けました。どれだけの励ましになったことでしょうか▼防災のためにも必要です。しかしそれ以上に、日頃からお互いを助け合える関係を作ることが大切だと痛感しました。

平成30年、私たちは「勇気をもって 私らしく やってみよう」を実践して参ります。

今月のことば ～和らぎをもたらす言葉～

洛叡支部 森岡佑太

今月は洛叡支部の森岡佑太が担当させていただきます。よろしく願いいたします。

今月の会長先生のご法話を拝読させていただいて感じたことを、私のエピソードを添えて話させていただきます。今月の佼成のタイトル『和らぎをもたらす言葉』を見た時に、パッと私の頭に思い浮かんだのは「ありがとう」という言葉でした。「ありがとう」には、人を和ませる力があると思ったのです。

会長先生のご法話の中身を知る前から思い浮かんだこの言葉は、今の自分に必要な言葉だと感じました。今まで私は、周りの人々や特に家族に対して、していただいた事を当たり前だと思っていたり、何かしていただいたことにも気付かず鈍感でいたりしていたからです。

会長先生のご法話の中の『嘘は他人を惑わせ、和合を破り、結局は自分を苦しめるのです。』という所から、大学に通っていた時のことを振り返りました。私は、大学で何度も留年した上、挙句の果てに中退をしました。その過程は、私は勉強についていけないにもかかわらず、家族には「大丈夫」と嘘を付き、自分が勉強をできている風に装っていました。

「ばれずに済まそう」、「何とかなる」、という自己中心的な考えしか持っておらず、親のお陰で大学に行くことができているという感謝の気持ちがありませんでした。まさにこの時、嘘をつき、家族や周りの人を惑わせ、和合を破り、自分自身を苦しめ、そして家族を苦しめていました。

中退してからは、正社員ではありませんが勤め先がすぐ決まり、のほほんとした気持ちでいました。しかしそんな時、親しくさせていただいている青年部員さ

んに、大学を中退したことと、パートタイマーではあるけど働くことを告げると、「今の気持ちのままでいいの。仕事に就くまでの一週間、朝の6時から教会と一緒に懺悔経（仏説観普賢菩薩行法経）をあげて、本当の意味で親にしっかりサンゲをして、新しいスタートをきらないか。」と言われました。

私は「わかりました」と言ったものの、初日から寝過ごしに行けなかったり、ご供養の途中から入ったりする日もありました。途中で、「もうやめようか」と聞かれました。親に嘘をつき続けたこと、自己中心的な考えしかもっていなかったことを、本当に申し訳ないと思っているのか。

もっと自分自身の心を見つめる為にも、「続けさせて下さい。」とお願ひし、一週間続けました。私はこのことがあったお陰で、しっかりと自分がしてきた事を見つめ、仏さまにサンゲすることができ、新たな気持ちでスタートが切れました。

ご法話の結びのところで、『私たちの幸せを誰よりも念じて下さる両親やご先祖の愛心を…』とありますが、私はこの部分から「親への感謝をしたい」と思い、最初に思い浮かんだ「ありがとう」という言葉が結びつきました。

今でもまだ小さい嘘はつくことがあります。それでも以前の自分に戻らないために、これからは自己中心的な考え方は捨てて、他人への感謝の気持ちと思いやりを持って生活していきたいと思ひます。

また、会長先生のご法話の中に「正直に生きる誠実さを忘れないこと」と書かれている通りに、私は自分に正直に行動し、自分も他人も大切にしていきたいです。ありがとうございました。

合掌

本部ホームページが刷新

4月8日より本部ホームページが刷新されました。
(<http://www.kosei-kai.or.jp/>)
トップページの「生きるヒント」から「らしんばん」を見ることが出来ます。

◆夫と口論が絶えず、実家へ避難。将来が不安です(40歳・女性) ◆希望部署で働けず、がっかり。どう心を切り替えれば…(26歳・女性)

回答者は秀島康郎氏、泉田和市郎氏、園浩一氏、沼田雄司氏、出射優行氏。胃がんが見つかった男性に対しては、つらく苦しい中であっても、すべては仏さまの手配によるものと解説。すべてを生かそうとする仏さまが「見える」か、仏さまのはたらきを「感じられる」か、そのために修行精進していきましょうと結ばれています。

夫婦共働きで2人目を育てられるか不安という女性に対しては、両親から頂いた自らのいのちに感謝することや周りの方への感謝の大切さを説かれています。ぜひ参考にして頂きたい。



日々の生活の中起こる悩みなどQ&A形式で掲載されています。

◆胃がんが見つかり、不安で、夜も眠れません…(4

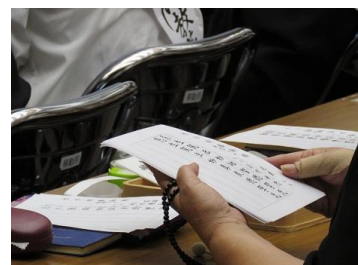
0代・男性) ◆夫婦共働き。2人目を育てられるか不安です(28歳・女性) ◆一人娘が英国人との結婚、渡航を希望。手放して喜ばず…(63歳・女性)

やる気を引き出す家庭教育 ～親の触れ合い方が大切～

6月24日、京都教会法座席において水子供養が行われ、多くの会員が参拝しました。開式前から琴の演奏が始まり、式典はナレーション、奉献の儀、読経供養、家庭教育講座、佐藤教会長の言葉と続きました。

家庭教育講座は京都家庭教育研究所の川野輪佳代子所長。今回の講題は『やる気を引き出す 親子の触れ合い』。自身も4人のお子さん、2人の孫を持ち、それらの経験も踏まえて、乳児期・幼児期・児童期・中高生期の特徴と親の触れ合い方について分かりやすく解説されました。

どの年代においても「やる気」を起こさしめるには子供自身の心が安定し、安心感に満たされていることが必要。そのためには、夫婦仲が良く家庭が明るいこと、親自身が豊かな心で生活すること、親が子供を信じ切る心を持つこと、認めてほめて喜んで期待することであり、親の触れ合いの大切さを解説しました。



東山消防署と消防訓練 ～消火活動と心肺蘇生を学ぶ～

6月10日、京都教会において消防訓練を行い、ご命日の参拝者も加わり136名で避難経路の確認や誘導の訓練を行いました。

当日は管轄の東山消防署にも協力を仰ぎ、地下1階パントリーより出火を想定し、その火災現場の確認、通報訓練、会員による初期消火、消防隊の消火活動、救急隊けが人救出という一連の流れを確認しました。

消防隊の緊迫感溢れる活動に身が引き締まる思いで、会員も訓練の重要性を改めて感じる事が出来ました。

消防訓練後は法座席に移動し、同署職員から「心肺蘇生とAEDの取り扱い」についての講習を受けました。人形を使った心肺蘇生訓練に会員一人ひとりが実践し、またAEDの使い方学ぶことが出来ました。



日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

今年から始まる新コーナー。言葉のルーツを知って仏教に親しみをもちましょう。

【引導を渡す（いんどうをわたす）】

何かをあきらめさせるとき、誰かと縁を切るとき、その最後の宣告をすること、思い切らせることを「引導を渡す」という。

本来の「引導」は「誘引開導（ゆういんかいどう）」という『法華経』のなかの言葉。人々を仏教の道に導き入れることを意味している。

また人が死ぬと、葬式のときに僧が死者に引導を渡す場面がある。これは、心と肉体が消え、煩悩のない世界である涅槃へ、死んだ人を導く儀式である。

死とは、つまりこの世の終わりだから、縁を切ったり、あきらめることをこれになぞらえて、現在のような意味の「引導を渡す」となった。

（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

記事募集のお知らせ

読者のみなさんから記事や写真・絵を募集します。年齢、性別は問いません。教会までお送り下さい。

- 我が家の父の日の出来事
- 海の思い出

庭野日敬開祖 法話集

今月の「会長法話」は「和らぎをもたらす言葉」です。庭野開祖の法話から、リーダーとしての言葉がけや心構えを学んでみたいと思います。(編集部)

【下がれば立てられる】

お釈迦さまは、お弟子さんや在家の信者がどんな質問をしても、「善哉（ぜんざい）、善哉。よくその質問をしてくれました」とおほめになられ、相手が納得するまで、丁寧にお答えくださっておられます。「そんなことが分からないのかね」というような顔はなさらない。ですから、お釈迦さまにお会いしただけ、お声を聞いただけで、心が晴れ渡ってしまうのです。

見ていると、お役をいただいてすばらしくよくなる人と、その反対になってしまう人がいるのですが、その違いは、自分が教えてやっているのだ、という気持ちになってしまうか、みなさんから教えていただけるのだという気持ちになるか、その違いにあるように思うのです。自分の言うことを、みんながなんでも「はい」「はい」と聞いてくれると、つい得意になって、自分の悪い癖が丸出しになってしまうことがあるのです。

ご法のお役は、人さまの仏性を拝ませてもらう行なのです。「何度言っても聞かせたら分かるんだろう」というような気持ちが起きたら、自分が天狗になりかけている証拠です。信者さんのお陰で仏さまのお慈悲をかみしめさせていただけるのだという心が、下がる心なのです。

【すぐれたリーダー】

私はこれまで数えきれないほどのたくさんの人にお会いしてきましたが、初めからまったくやる気がないというような人はいない、と言いきっていいと思うのです。

もし、やる気をなくしている人がいたとしたら、何かでやる気が抑えつけられてしまっているのです。すぐれたリーダーとは、どうしたらみんながやる気になるか、そこを具体的にアドバイスしてあげられる人だ、とあっていいでしょう。

ディズニーランドが大変な人気で、連日、満員盛況

だそうですが、来場者に喜んでもらえるように、じつに細かな気くばりがされているのだそうです。

たとえば風船売りのお嬢さんは、子どもと目線が合うように、しゃがんで風船を渡すように訓練されている。それで親御さんが、自分の子どもが本当に大事にしてもらえたと感動して、わざわざお礼を言いにくる人もいます。すると、売るほうもうれしくなります。自分の仕事にやりがいと誇りを持つわけです。

「進め」「がんばれ」と号令をかけるよりも、だれもが本来持っているやる気を何が抑えつけているのか、そこまで心を届かせて、それを取り除いてあげる慈悲心が大切です。

【希望があれば疲れしない】

『法華経』の「化城喩品」には、宝の山に向かう隊商のリーダーが、疲れきったメンバーの行く手に幻の城を浮かび上がらせて、みんなの気力を奮い立たせる物語が出てきます。これは、みんなに希望を抱かせる手段だともいえましょう。

「前途は厳しいんだぞ。こんなことでどうする」と叱咤ばかりしていたのでは、だれもついてこなくなってしまう。リーダーといえども、これからのすべてのことについて百パーセントの確信を持っているわけではありません。しかし、「こっちへ進もう。必ず未来は拓けるのだ」と言いきるその迫力が大事なのです。

行く手に苦しいことが待っていることもあります。将来のために、あえて不利なことを甘受しなくてはならないこともあります。ときには、回り道をしなければならないこともあります。

しかし、希望を持って自分の意志で歩き始めると、勇気を持ってそれに耐え、それを受け入れ、乗り越えていくことができるのです。「希望があれば疲れしない。希望を持って生きる人は老いることがない」という言葉があります。(つづく)

7～8月の主な教会行事

7月1日(日)	9:00～	朔日参り
4日(水)	9:00～	開祖さまご命日
10日(火)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(日)	9:00～	盂蘭盆会・釈迦牟尼仏ご命日
8月1日(水)	9:00～	朔日参り
4日(土)	9:00～	開祖さまご命日
10日(金)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(水)	9:00～	平和祈願の日・釈迦牟尼仏ご命日

●メッセージ

水子供養での家庭教育研究所講師さんと話す機会がありました。印象的だったのは、子供は親のコピーですということ。そう思って日頃の新聞記事に目を通すと青少年に関連する犯罪がいかにか多いことか。

容疑者は立派な成人ですので、子供という訳ではありません。しかし、幼少期にどのように育てられたのか、考えさせられます。容疑者を攻める前に縁の大切さや大人が振り返ることも必要かもしれません。